

平成28年度茨城県立病院運営評価委員会（第1回）の開催結果

日時：平成28年11月2日（水） 17:55～19:23

場所：茨城県庁11階 1103会議室

【委員】

城西大学教授	伊関 友伸 氏
日製日立総合病院長	奥村 稔 氏
公認会計士	清水 至 氏
茨城県精神科病院協会長	高沢 彰 氏
筑波大学附属病院長	松村 明 氏
群馬県立小児医療センター院長	丸山 健一 氏
茨城県医師会長	諸岡 信裕 氏（委員長）
茨城県総合健診協会顧問（県医療改革担当顧問）	山口 巖 氏

【議事内容・意見等】

○平成27年度第2回委員会における意見への対応

意見	対応
新公立病院改革ガイドラインへの対応については、現在の地域医療構想の検討状況を踏まえ、今後病院がどのような機能を担うのかも含めて、今から考えないといけないのではないかと。	本県の地域医療構想における構想区域ごとの具体的な対応策等は、構想区域ごとに設置されている地域医療構想調整会議において、地域医療構想策定後に進める計画と聞いている。 このため、県立病院の果たす役割については、今後、地域医療構想調整会議での協議や、来年度策定予定の次期保健医療計画の中で明確にしていきたい。
地域医療構想への対応について、地域によっては、地域包括ケア病棟をつくったり、回復期リハビリテーション病棟に転換したりといった取組みが行われている。中央病院として、病院の将来像について、何を経営の柱にして充実させていくのか、収益もよく検討して考えた方がよいのではないかと。	中央病院については、引き続き、がん診療などの高度・専門医療や救急医療など県の政策医療の中心的な役割を果たしていく必要があるが、これらの実施にあたっては、収益等も十分に検討・配慮したうえで病院経営にあたって参りたい。

○主な意見

- 中央病院がDPCⅡ群（大学病院本院に準じた診療機能を有する病院）に復帰したのは評価すべきことであり、是非とも維持してほしい。一方で、総合入院体制加算をとっていないということもある。これはさらに収益改善につながるものなので、取得できるように取り組んでほしい。
- 睡眠医療に関して、歯科等と連携をとったほうが、県としてもさらに進んだ連携となると思うので、ぜひ進めてほしい。